

# 若き附中

平成30年度附属中教育実践目標

熊本大学教育学部附属中学校

学校だより

平成30年4月19日

第1号

《文責：高木》

熊大附中に  
入学して

一年四組

東矢

私が、この附属中学校で頑張りたいことは、生徒どうしはも

学校だより「若き附中」では、生徒諸君の意見文を織り交せながら附中の様子をお伝えできればと考えております。「若き附中」とは、ご存知の通り校歌に出てくるフレーズで、附中らしくてとても好きな言葉です。



私が、この附中の学年主任時代に学年だよりとして「若き附中」を発行していましたが、今回、私の副校長就任を記念しまして、「若き附中」を学校だよりとして発行していきたいと思っております。

さて、今年度の附中の教育実践目標は「互いに響きあう、心豊かな附中生の育成」です。互いに

※学校だよりの大事な題字は、毛筆が上手と評判の三年一組の橋本



響きあうとは、生徒どうしはもちろんのこと、生徒と教師、生徒と保護者・地域、教師と保護者や地域の皆様とが、互い合いの影響を与えながら共に高めていくことを意味しています。決して一人一人がそれぞれに無関係に成長していくのではなく、ありませぬ。その上で、心身共に健康で心豊かな附中生を育てたいというのが目標です。

私たち附属中職員一同、精一杯頑張ります。どうかよろしくお願ひします。

学校だより

平成30年4月19日

第1号

《文責：高木》

熊大附中に  
入学して

一年四組

東矢

私が、この附属中学校で頑張りたいことは、生徒どうしはも

積極性を持つことです。小学校の頃は形ずかしから、友達もやっつけないからと言って、自分から進んで物事に取り組むこととあまりしませんでした。そのための、貴重な体験の機会を逃して来たと思います。中学校生活では、この様な後悔のない様自分から積極的に物事に取り組む姿勢を意識し続け、そうする事でまた、周りに流されない自分さっぱり確立していこうと思ひます。

二つ目は、課題発見力を身に付けることです。私は、先入観でものを見ることが多く、無意識に物事を決めかかると癖があります。そのため課題の発見が遅くなってしまうことが多くあ

ります。しかし、課題を発見できなければ解決も成長もありません。そのために深い観察力と思考力を身につけたいです。常に、これの良いのかを問い続けられる毎日であれば、自己向上のための課題を多く発見することができるといいます。課題が発見できれば後は解決成長することができるといいます。

以上、私は、この二つを意識し続けることで、熊大附属中学校での成長がとげられればと思っています。

## 中体連へ向けて

三年一組 佐伯

いよいよ三年生は「最後の中体連」まで残り三ヶ月ほどとなりました。僕は野球部に所属しています。六月の末に中体連があり、僕たちは引退します。そのため、僕は日頃の練習から悔いを残さないというところを考えています。

去年の六月、現在の高校一年

生の先輩方が3年生だったときです。ピッチの場面でエラーをしまし、相手に逆転をされてしまいました。先輩に申し訳ないという思いでいっぱいになりました。

それから一年経って僕たちは最上級生となり、学校でも全体を引っ張っていく存在です。だからこそ、心残りがあってはいけなと思っています。

僕も含めて、三年生は「悔いが残らないように練習をしていきますか。全力プレーをする。後輩に技術面などを教える。声を誰よりも大きく出す」ことができる。また、まだあるはずですが、試合に勝とうが負けようが、最後に、三年生全員が、「今まで部活をやっていたよかったです。思えるように、悔いの残らない三ヶ月を過ごしたいです。」



さんにかけてもらいました。快く引き受けてくれて、ありがとうございました。